

## 会長挨拶

### 疼痛治療における多職種連携

田口奈津子

千葉大学医学部麻酔科学講座

2022年初冬に入り、コロナ感染症の足音が急激に大きくなってきた。やはり第8波が来てしまったようである。少しずつ対面の学会が復活し、昔ながらの“集まり”が懐かしくもあり、楽しくもありと感じていた今日この頃であったので、もう少し現地開催の方針で粘りたいと思っている。もちろん遠方の千葉で開催する以上オンライン配信は必要と思うが、口演発表の緊張感や実際の質疑応答の臨場感が感じられるのはやはり現地開催の利点と感じている。オンラインが普通になってしまった若い先生方にこの機会を経験していただきたいと思っている。

さて、2022年、手術後の急性疼痛を管理するために、術後疼痛管理チームとして、麻酔科医、看護師、薬剤師によるチームでの管理に、診療加算がみとめられるようになった。「多職種連携」は今や医学の世界では当たり前だが、それでも診療加算の後押しは大きいと言わざるを得ない。

さらに、薬物療法の確立が困難な、慢性疼痛治療に対しても、数年前より本邦において痛みセンターの設立の必要性がとなえられている。痛み治療を担う医師、看護師、薬剤師に加えて認知行動療法などの心理社会的アプローチを担う心理士や運動療法を担う理学療法士、作業療法士などの多職種が患者の治療のゴールを共有し、治療に当たることが望ましいと考えられている。

学会のテーマとしては比較的実務的な内容かもしれない。しかし、多職種連携はそれほど簡単ではない。共通の目標を持って、専門知識を共有し、業務を分担し協働する。疼痛治療における多職種連携を実践するための各施設の取り組みをぜひ共有していただきたい。